

「めぐり、つなかる水」

大宮中学校 三年 土原 七海

母の仕事は看護師です。親について、将来についてなどの作文を書くとき、私はいつも母のことを書きます。人を助け感謝されている姿を想像すると、私の目に母は眩しく映ります。父は下水道に関する仕事をしています。けれど、私は父の仕事を友達に誇って言えたことはありません。ただ何となく格好悪いよいうな気がしていたのです。

夏休み前の授業、先生が、「下水道についての作文を書くコンクールがあります^{LO}。」と教えてくれました。そういえば、. . . と思いました。下水道について深く考えたことかあっただろうか。こんな機会はそうそうないのだからと、今年の夏は下水道について調べることになりました。水は我々の生活には必要不可欠です。水を使わずに一日を過ごすなんて考えられなく

らい身近なものですか。また、地球は「水の惑星」と言われています。実際、地球の表面の三分の二は水で覆われています。その上、島国である日本は海に囲まれ水が豊富にあると感じることでしょう。しかし、その九十七%は海水です。残りの三%は氷雪や氷河などで、我々の生活用水として使える淡水はたったの〇・〇一%しかありません。水も限りのある資源なのです。未来にも残さなければならぬ資源なのです。そのため、使った水をきれいにし、繰り返し使えるようにする必要があります。使います。そこで活躍するのが下水道です。使った水をきれいにし、海や川などに流すための施設です。普段下水道を目にすることはありません。しかし、街を清潔にする・街を侵水から守る・環境を守る・エネルギーや資源を創る、この四つの役割で私たちの快適な生活を守ってくれています。まさに縁の下の力持ちだと言えるでしょう。まさか父の仕事がみんなの生活を守っているとは思いません。

んでした。

です。私には一つ気になつたことかあります。それは、私たちが下水道にもうイヤイヤです。みなさんは下水道と聞いてどのようないヤイヤをもつでしょう。汚い？臭う？少なくともイヤイヤがイヤな印象を受けないはずですが、私もあまり良い印象をもてずにいまして。だからみんなの生活を守っている父の仕事を自立たないし格好悪い仕事だと決めつけていたのです。しかし、下水道には街を清潔にする

役割があります。汚れた水を出しているのは私たちで、下水道はその水をきれいにしてくれているので、それなのに下水道を汚いと言うのはおかしいことだと気づいたので。なぜ汚いと思うのだろうと考えた結果、やはり一人一人の意識が低いのだと思いました。私は、より多くの人たちに下水道の役割を知ってもらい、普段の行動を見直してほしいです。そのためには、自分の生活から変える必要があります。油を拭き取って皿を洗ったり、

米のとき汁を植物の肥料にしたりするなどです。そんなことで、. . . と思うかもしれませんが。けれども、まずは自分ができることをする。できるようになったら次の人に伝える。次の人かさらに次の人に伝える。この循環が生まれれば、少しずつみんなの意識も変わってきていくはずです。塵も積もれば山となるというように、少しの意識を変えることからできれば、きれいな水が増え、海や川に住める生き物も増えていくのです。逆に自ら知ろうとしなければ

は何も変わりないところか、これくらい大丈夫だろうと自分に甘くなることで海や川の生き物に悪影響を与えてしまい、余計現状が悪化するのです。自分たちか少しでも行動を変えた結果、安心して過ごせる未来が待っているのならやらない手はありません。私たちが流した水は下水道を通過して海や川を流れた後、めぐりめぐって再び自分自身に帰ってきます。帰ってきた水がきれいになっていくか、さらに汚れているかは私たちの行

動で変えられます。

最初に私の母は看護師であると書きました。医療には清潔な水が必須です。汚水で看患を救うなどできません。では、その清潔な水はどこで作られているのか？私はその答えを知らず、何とかできました。母が看護師として人を助けることかできたのは、父の仕事あってこそなので。見えなけれ、つなかけている私の両親の仕事。これからは、みんなにも水について少しでも考えてもらえるように、父

の仕事も胸を張って伝えていこうと思います。